郷土の会だより
発行責任者
岡村昭則

ウォーキングサークル　番外編

新撰組ゆかりの日野

天谷範夫

9月19日、本日大宮駅に集合したのは、私を含め6人。新宿乗換で、日野駅へ。改札で昔、仕事でお世話になった方と、偶然会いビックリ。まずは、新撰組六番隊長の井上源三郎の墓が有る、宝泉寺へ。本堂脇に記念碑が有り、奥の方には墓が有り、横に置かれた箱には、ここを訪れた方々が書き収めたノートや、絵などが沢山ありました。次に向かった八坂神社は、本日例大祭で、本殿、天然理心流奉納額が見る事が出来、又解説もしてもらいました。残念ながら、撮影禁止の為、写真は有りません。露天の賑わいと、祭ばやしを後にして、日野宿本陣へ。ここは建物が、当時の状態で残っています。梁や、柱、襖などの造りも、見応えが有ります。当主佐藤彦五郎の妻が、土方歳三の姉で、幼少の頃より出入りしていたとの事です。又、入り口脇には、かつて剣術道場が有り、そこには、近藤勇、沖田総司ら、新撰組の礎となる剣士たちが、多数居たようです。

本陣見学を終え、道路向かいの日野宿交流館で休憩、昼食。ここには、日野の街の変遷が判る写真や、資料が展示してあります。駅の方へ少し戻り緩やかだけど、長い坂道を登り、新撰組のふるさと歴史館へ。ここには、新撰組の資料の他に、グッズ販売や、衣装貸出も有り、記念写真を撮っている親子連れや、若い女の子が目立ちました。天然理心流の道場を模した一角も有ります。ここへ来る途中、街なかであの『誠』の字がついた羽織袴の女の子のグループを何組か見ましたが、ここで借りて着替えて出ていくようです。私には出来そうも有りませんが、若さの特権でしょうか？ここを出て脇道の大きな桜並木を進むと行き止まり。急な石段を下りて少し行き川崎街道に出て更に歩いて、国道20号に出てモノレールの高架目指して歩き一つ裏の道に進むと、土方歳三資料館が有ります。個人の住宅に展示室を増築している為、あまり広くは有りませんが、30人近くの見学者がいて満員状態です。中で書籍や、グッズも販売しています。モノレール高架をくぐり歳三の墓が有る石田寺へと向かう。境内の木陰で小休止して、本日最後の見学場所の高幡不動へ向かう。時間もあまりないので、山門をくぐり本殿、五重塔などを見て、今回のウォーキング終了。お疲れさまでした。

★新撰組とは

結成　1862年、江戸幕府は庄内藩の郷士・清河八郎の建策を受け入れ、将軍・徳川家茂の上洛に際して、将軍警護の名目で浪士を募集。1863年2月27日、集まった200名余りの浪士達は将軍上洛に先がけ、浪士組として一団を成し、中山道を西上する。浪士取締役には、山岡鉄舟外が任じられた。京に到着後、清河が勤王勢力と通じ、浪士組を天皇配下の兵力にしようとする画策が露見する。浪士取締役の協議の結果、清河の計画を阻止するために浪士組は江戸に戻ることとなった。これに対し近藤勇、土方歳三を中心とする試衛館派と、芹沢鴨を中心とする水戸派は、あくまでも将軍警護の為の京都残留を主張。これに応えて試衛館派、水戸派などが京の壬生村に残ったが、その中でも内紛あり。同年3月、公武合体に基づく攘夷断行の実現に助力することを目的とし、新選組の前身である「壬生浪士組」（「精忠浪士組」とも）を結成。36人余の集団となった壬生浪士組は、京都守護職松平容保（会津藩主）より、主に攘夷倒幕派浪士達による不逞行為の取り締まりと市中警護を任される。同年8月に起きた八月十八日の政変に出動し、壬生浪士組はその働きを評価される。そして、新たな隊名「新選組」を拝命する。

発展　池田屋事件跡1863年9月、近藤・土方ら試衛館派は、芹沢ら水戸派を粛清して隊を掌握し、近藤を頂点とする組織を整備する。1864年6月5日の池田屋事件では尊王攘夷派の蜂起の計画を未然に防ぎ、禁門の変に参戦（ただし、池田屋事件に関しては尊皇派の陰謀が事実であったかどうかは証拠に乏しく、史疑もある）。池田屋・禁門の変の働きで朝廷・幕府・会津藩より感状と200両余りの褒賞金を下賜されると、1864年9月に第二次の隊士募集を行い、新選組は200人を超す集団へと成長し、隊士を収容するために壬生屯所から西本願寺（京都市下京区）へ本拠を移転する。1867年夏頃には幕臣に取り立てられる。

解散　1867年11月に徳川慶喜が大政奉還を行った。以降旧幕府軍と共に鳥羽・伏見の戦いに参戦するが、新政府軍に敗北。その後、榎本武揚が率いる幕府所有の軍艦で江戸へ移動。新選組は幕府から新政府軍の甲府進軍を阻止する任務を与えられ、甲陽鎮撫隊と名を改め出撃するが敗戦。甲州勝沼の戦いの後、江戸に戻ったが、方針の相違から同志が靖兵隊を結成。近藤、土方らは再起をかけ、流山へ移動するが、近藤が新政府軍に捕われ処刑され、沖田総司も持病だった肺結核の悪化により江戸にて死亡。新選組は宇都宮城の戦い、会津戦争などに参戦するが、会津では斎藤一等が離隊。その後蝦夷共和国の成立を目指す榎本武揚らに合流し、二股口の戦い等で活躍する。新政府軍が函館に進軍しており、弁天台場で新政府軍と戦っていた新選組を助けようと土方ら数名が助けに向かうが、土方歳三が銃弾に当たり死亡し、食料や水も尽きてきたため、新選組は降伏した。旧幕府軍は函館の五稜郭において新政府軍に降伏した（箱館戦争）。明治政府は、隊士の遺族らに遺品の所有を禁じた。

★壬生屯所跡　八木邸

★壬生寺にある近藤勇の像

鎌倉幕府跡地を訪ねる、御霊神社のお祭りを見る

天谷範夫

９月１８日、千葉県佐倉にある、国立歴史博物館友の会主催の『鎌倉幕府跡地を訪ねる』に参加しました。現地（鎌倉駅）集合の９時30分には、50名を超える参加者で、受付を済ませ、名簿を見ると、大半は千葉県の方ですが、東京、埼玉、神奈川からの方も、数名いました。人数が多いので、２班に分かれて、まずは、若宮大路（段葛）へ向かう。二の鳥居の左脇に、石碑が有りますが、今まで気づきませんでした。

続いて向かった、宇都宮辻子幕府跡は、現在は、小さな宇都宮稲荷神社があるのみです。細い道を、北に向かい、日蓮上人が本尊の、妙隆寺へ。更に細い道を進み、若宮大路幕府跡の石碑へ。ここから、東に進み北条氏の屋敷があった、宝戒寺へ。萩の寺としても、知られているが、この日は少し咲いている感じでした。ここからは、坂を少し上り、鎌倉幕府終焉の場所と言われている、東勝寺跡、高時腹切りやぐらに進む。宝戒寺前迄戻り、金沢街道を進み、大蔵幕府跡、法華堂跡、石段を上り、頼朝の墓へ。ここから、駅方面に進み、最後は、鶴岡八幡へ。ここで自由解散となる、３時間ほどの史跡巡りでした。

このまま帰るには、少し早いので、鎌倉から江ノ電に乗って、長谷迄行き、線路沿いに少し歩き、御霊神社（ごりょう神社）に向かいました。本日は、例大祭で、神楽や、面掛行列が有るので見ることとしました。事前資料は、あまり仕入れてなかったのですが、とても、満足できるおまつりでした。

写真・文責：天谷範夫

宇都宮稲荷神

北条執権邸奮蹟

妙隆寺

・伊奈いきがいネットクラブ第五回編集委員会（９月２２日開催）

今年度第５回編集委員会が伊奈学園で午後５時から開かれ、左記事項の報告があった。

①伊奈いきがいネットクラブのサーバーで運営されている伊奈学園ホームページの取扱いについては、学園側の氏家所長と覚書を取交して来た。氏家所長が来年３月に退職するので、覚書の確認を行うことになった。

②シェアポイント講習会に26名参加で、最後にそれぞれのホームページを作ったことで、これまでとは違った講習会となり、好評の報告があった。12月にフォロアップ講習会と個人ウエブ講習会が開かれることが発表された。

③埼玉県主催のホームページコンテストには参加しないことが報告された。

④専科２期のホームページ立上げと、現在のスタイルで専科ＨＰは進むことが報告された。21期のＨＰについて立上げを急げと田中健委員よりお願いがあった。出席者　岡村　昭則

御霊神社の例大祭